

折に触れ 四字熟語

NO. 212 『雪裏清香』 せつり (の) せいこう

< 意味 > 梅の異名。雪のある間はほとんどの花はその姿を見せないが、梅だけはまだ雪のある間に清らかな香りを漂わせているという意。

語 釈 : 「雪裏」は雪が降っている中、また、雪の積もっている中。

一 言 : 厳しい寒さの中をどこからか梅の花の上品な匂いが流れてくると、思わず足を止めて花のありかを探してしまいます。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」